

# 日本初 知的障害者女子チーム

全力で応援したいチームが誕生した。埼玉県川越市で5日、日本初となる知的障害者の女子ソフトボールチーム

「武蔵野アグリティールプリンセス」が始動し、参加者がキャッチボールやバッティングを楽しんだ。あらゆるステージで、多くの方々にソフトボールを楽しんでもらうのが当NPOの目標なので、この素晴らしい取り組みを大いに支えていきたい。

代表を務める工藤陽介さん(38)とは深い縁がある。2000年のシドニー五輪で、ソフトボール日本代表の通訳としてチームに帯同してもらったのだ。

工藤さんは当時、オーストラリアの体育大学に留学し、障害者スポーツのトレーニング、コーチングなどを学んでいた。現地事情に明るい頼もしさに加え、大会中も、審判に抗議する私の日本語を正確

ソフトボール元日本代表監督、NPO  
法人「ソフトボール・ドリーム」理事長



宇津木 妙子 \* 毎週日曜日掲載

に通訳して、銀メダル獲得を支えてもらった。

そんな工藤さんから相談を受けたのは今年の春。「知的障害のある女性がスポーツを楽しむ場所をつくりたいんです」と熱い意気込みを語ってくれた。子供のうちは男子と一緒に体を動かすことができが、成長して大人になるとつれてスポーツをする環境が

なくなっていくのだという。

現在、埼玉県東松山市の障害者福祉施設で働いたわら、社会人女子ソフトボールチームの監督も務めている工藤さん。「ソフトボールは女性が輝けるスポーツ。チーム一丸となってプレーする楽しさ、喜びを彼女たちに味わわせてあげたい」という考えには深い実感がこもっている。

工藤さんの活動は、もう一つ大きな意義を持っている。

実は、2020年東京五輪・パラリンピックの追加種目を目指している「野球・ソフトボール」について、一部から「障害者の競技人口が少ないことは、復活に向けてマイナスマテリアルになるのではないかと指摘する声があるのだ。もちろん臆測だが、第1号チームの誕生をきっかけにプレーヤーが増えてくれれば心強い。競技のすそ野を広げ、国際社会にアピールすることも



初練習には埼玉県内の特別支援学校の生徒3人が参加した

できる。

とはいえ、ゼロからチームをつくるのは本当に大変なこと。選手集めは簡単ではないし、バットやクラブなどの準備にはまとまった資金が必要になる。練習や試合時には、複数の健常者のサポートも欠かせない。多くの方々の善意がなければ、チームの運営もままならないのが現実なのだ。

工藤さんは22日、埼玉県障害者交流センター(さいたま市浦和区)で、選手や支援者を募るスカウトキャラバンを開催する。男女も、障害者か、健常者かも問わず、広く参加者を集めているという。私も駆けつけてノックバットを握るつもりだ。工藤さんは「選手はもちろん、練習パートナー、ボール拾いなどをお手伝いいただける方も大歓迎です」と呼びかけている。

隣県で始まった新しい挑戦。「我こそは」と手を挙げたいだけの方がいれば、ぜひ工藤さん(☎080・7963・4373)までお声がけをお願いします。